

# 早稲田大学インクルーシブ教育学会 ニュースレター

2021年（令和3年度）NO.2



## 子どもの思考を広げ、深める介入方法 ～ アセスメントベースのファシリテーション ～

### GEMSとは

GEMSとは、アメリカのカリフォルニア大学バークレー校において研究開発されている子どもを対象とした「導入→やってみる(探究)→考える(概念化)→考えたことをもとにまたやってみる(応用)」のラーニングサイクルが取り入れられている参加体験型プログラムです。

鴨川先生は、「導入では、子ども達に与える課題はシンプルにし、その課題を深め、広げるためには発達や特性をアセスメントして適切な介入や発言をすることが大切である」とおっしゃっていました。また、GEMSにおいて子ども達の主体的な探究を促すために使用されているMI理論(Multiple Intelligences)についてもご説明いただきました。



↑「バナナは水に浮く？沈む？」という導入1つでも多面的多角的に見ると様々な考えが生まれることを例に出し説明していただきました。

### GEMSのプログラムを体験してみよう！ ～浜辺の油～



実際にGEMSを体験してみよう、ということで「浜辺の油」というプログラムが行われました。「大変！船から油が流出した！」という導入から始まり、各々透明なカップに水とペットボトルキャップ1杯の油を入れて海に見たて、油が取れそうなものを家の中から探してきます。

最初は「ティッシュ」や「キッチンペーパー」「コットン」等、吸い取るイメージのあるものでそれぞれ実験を行っていましたが、「猫の毛は吸い取ります」「牛乳パックの裏側がよく吸い取れました」「コーヒーフィルターがすごい」等の結果が共有されていきました。その都度「なんでかな？」「共通点あるかな？」等、思考を促す発問が鴨川先生から出されると、参加者は夢になり、家の中から吸い取ることが出来るものを探し出して、実験を行っていきました。

さらに実験の途中には鴨川先生から「羽と、ナイロンと、綿と、藁、どれが油を吸い取るだろう」という発問があり、それぞれが今まで自身で行った実験をもとに予想を立ました。この4つ

の実験は鴨川先生が画面の前で行い、参加者は結果がどうであったかまた話し合いを行っていきました。

「鳥の羽が結構油を吸い取る」ということを実験の結果として知ることができた後、2020年にモーリシャス沖で貨物船が座礁したニュースを取り上げ、海鳥たちの体に油が付くことや、ついた後の処理について繋げ、実験をして結果が見えたという点に留まらず、日常に結びつけた学習を体験することができました。

## アセスメントを行うために

GEMSを通して、思考の深まりや広がりを経験した後は、本研修のメインである「アセスメントベースのファシリテーション」を学ぶために、子どもの解答(発言)から認知特性を見立てる視点について本田先生から学びました。

ピアジェの認知発達段階の理論に基づいて、情報処理の段階を見立てるために各段階での子どもの姿や発言と、それに対して発達を促すための具体的な発問例について学んでいきます。また、授業中に児童生徒の思考が拡散してしまったり、教師の言いたい方向に誘導してしまったりする時に、子ども達の思考や感情に何が起きているのかが説明されました。

さらに、GEMSでも使用されているMI理論についての詳しい説明がなされ、児童生徒それぞれに適した学び方を行うことの必要性や方法等についても学ぶことができました。



## 学んだことを活かして



実際にGEMSを行った小学生と中学生の逐語を見ながら、子どもの発言から見立てを行い、介入方法を考えていきました。見立てについては本田先生から学びましたが、その知識が実際の場面でも使用できるように話し合いを行っていきます。最初はどのように見立てていくかという点が難しいところもありましたが、考えるポイントや捨てる発言が見えるようになってきてからは、見立てができるようになっていきました。そして、見立てができることによって、今まで経験や勘で行っていた介入ではなく、見立てからの根拠のある発問や介入を考えることができました。

### ご参加の皆様からのアンケート(一部抜粋)

- ・漫然と発問するのではなく、論理的な裏付けのもとに考え抜いた発問をしていることが印象的でした。
- ・今、一番悩みの種であった、体験型探究学習のファシリテーターの発問の仕方についての内容であったので、非常に貴重な時間になりました。視点が少し明らかになりました。
- ・仮説実験授業のことは知っていましたが、より発展的で楽しいです。でも…ファシリテーターの力量が問われますね。学び続けなければ…と思いました。
- ・逐語を見ると、子どもたちの状態がわかりやすく、介入方針を立てる上でとても良いと思いました。子どもがどういうイメージを持っているのか、言葉だけでは表現しきれないところを深めていく声かけ、視覚での提示を意識したいと思いました。
- ・楽しく体験的にファシリテーターの発問について学びました。「逐語」という言葉を初めて知りました。個にクローズアップした研究授業記録をとる際に生かしたいです。

第2回の研修は、遠田先生をお招きし、「コロナ禍で協同的な学びをどう作る？」と題しまして、オンラインを活用しながらの協同学習の可能性について考えていきます。7月18日(日)9:00～ たくさんのご参加をお待ちしています。